

季刊

# 博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM  
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

# 96

春の企画展

千少庵と蒲生氏郷

福島県立博物館



春の企画展

# 千少庵と蒲生氏郷

二〇二〇年四月一七日(土)～五月三〇日(日)

主催：福島県立博物館・茶道資料館

特別協力：(財)表千家不審菴・(財)裏千家今日庵

協力：(社)裏千家淡交会会津支部・表千家同門会福島県支部会津方部  
滋賀県立安土城考古博物館



竹一重切花入 銘 園城寺 千利休作 東京国立博物館蔵  
Image:TNM Image Archives Source:http://TnmArchives.jp/



呂宋茶入 千少庵所持 不審菴蔵

天正一九年(一五九二)二月二十八日、豊臣秀吉の怒りを受けて千利休が賜死。それによって、千家は存続の危機を迎えました。利休の二人の息子のうち、道安は飛騨や阿波などに身を潜め、少庵は蒲生氏郷のもとへ預けられました。会津の大名・蒲生氏郷は利休七哲の一人に挙げられる茶人でもあり、少庵を保護し、徳川家康と秀吉へのとりなしに尽力しましたとされています。京都に戻った少庵は、権力と一定の距離を持つてわび茶人に徹し、利休の茶の湯を忠実に継承していきました。それはまた、宗旦へと受け継がれ、現在に続く千家茶道の礎となっています。

本展覧会は第一部「利休の茶の湯の継承者」、第二部「氏郷とその時代」の二部構成により、利休の茶の精神やそれを受け継いだ千少庵と蒲生氏郷の茶の湯をゆかりの品から紹介するとともに、会津を治めた蒲生氏郷と同時代の武将たちの足跡をご覧いただけます。(美術担当 小林めぐみ)

## ■講演会「千家の再興―少庵と氏郷―」

講師：茶道資料館副館長 筒井紘一さん

日時：五月一日(土) 一三時三〇分～一五時

## ■展示室講座

\*要企画展チケット

第二回のみ常設展チケットも必要

第一回「氏郷の生涯―『蒲生記』を読む―」

講師：当館学芸員 高橋 充

日時：四月一七日(土) 一三時三〇分～一五時

第二回「会津の茶の湯」

講師：当館学芸員 小林めぐみ

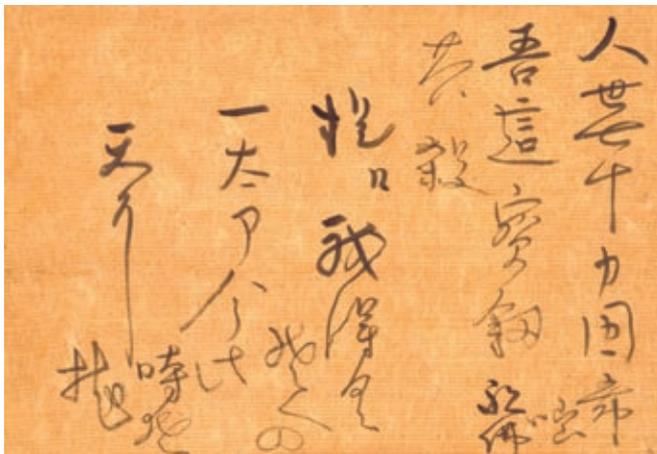
日時：四月二十九日(木) 一三時三〇分～一五時



蒲生氏郷画像 妙心寺逸伝賛  
重要文化財 西光寺 (西会津町)



千少庵画像 蘭叔宗秀賛 不審菴



利休遺偈写 千少庵筆 今日庵

■ 展示解説会 \* 要企画展チケット

日時：四月二十五日(日) 一五時三〇分～一六時三〇分

五月三日(月) 一三時三〇分～一四時三〇分

第三回 「氏郷以後の蒲生家―『蒲生記』を読む―」

講師：当館学芸員 高橋 充

日時：五月八日(土) 一三時三〇分～一五時

第四回 「茶の湯にみるやきもの」

講師：茶道資料館学芸員 降矢哲男さん

日時：五月三〇日(日) 一三時三〇分～一五時

平成三十二年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業

## 〈漆のくに・会津〉プロジェクト

会津の大事な文化資源・漆。縄文時代から現代までの長い歴史。漆の木を育て、液を掻き、木地を挽き、塗り、装飾してきた伝統の技。何世代にも渡り使いつけてきた暮らしの美。

漆は会津が守り育ててきた文化資源です。会津の漆文化の活性化を目的として今年度行った〈漆のくに・会津〉プロジェクト。そのなかの一事業であるトークイベントの様子をご紹介します。



地域の文化資源を活用して地域の活性化を行っている取り組みを、四組のゲストにご紹介いただきました。〝地力〟を〝知力〟でどう活性化するか。会津へのヒントを頂きました。

トークイベント 知力と地力を活かした地域の活性化1  
「First style」の仕事

日時：平成三十二年一月一六日(土) 一三時三〇分～一五時  
ゲスト：五十嵐恵美さん・星野若菜さん(Fstyle)

聞き手：赤坂憲雄(福島県立博物館長)  
会場：福島県立博物館講堂

第一回目のゲストは、新潟市を拠点に伝統工芸や地場産業のデザイン提案から販路開拓までを一貫して請け負っているエフスタイルのお二人。作り手と真摯に向き合い伝達者として一番良い形で購入者に届けているお二人の仕事についてご紹介いただきました。会場からは、その仕事への共感や会津でもエフスタイルのような存在が必要という声も聞こえてきました。

トークイベント 知力と地力を活かした地域の活性化2  
「会津の地力」

日時：平成三十二年二月一九日(金) 一五時～一七時

ゲスト：山形洋一さん(前喜多方市美術館長)  
渡邊晃一さん(福島大学准教授・福島大学芸術による地域創造研究所長)  
聞き手：赤坂憲雄(福島県立博物館長)  
会場：福島県立博物館講堂



第二回は、喜多方市内で蔵のまちならではのアーカイブイベント「喜多方あーとぶらり」を九年間にわたり開催している山形洋一さんと、会津本郷焼の産地・旧会津本郷町(現・会津美里町)でやきものまちならではの「風と土の芸術祭」を企画監修して

いる渡邊晃一さんをお招きし、土地の魅力をアートが引き出し、人や文化をアートが育てていることなどをお話しいただきました。会場からは、地域の人々が能動的に文化事業を運営することへの感動や地域の活性化におけるアートの効果への気づきの声がありました。

トークイベント 知力と地力を活かした地域の活性化3  
「越後妻有とアートの力」

日時：平成三十二年二月二〇日(土) 一三時三〇分～一五時  
ゲスト：北川フラムさん(越後妻有アートトリエンナーレ総合プロデューサー)

聞き手：赤坂憲雄(福島県立博物館長)  
会場：福島県立博物館講堂

第三回のゲストは、新潟県十日町市を中心とした越後妻有地域で行われている「越後妻有大地の芸術祭」のディレクター・北川フラムさん。芸術祭開催の経緯や、裏話、作品制作秘話などをご紹介いただきながら、アートが地域や社会と関わる事で生まれる変化についてお話しいただきました。会場からは、アートへの可能性、地域づくりへの新しい姿への共感の声がありました。

(美術担当 小林めぐみ)



Q・・玄如節と民謡「会津磐梯山」の歌詞が似ていますが、関係あるのでしょうか？

A・・現在、会津の各地で盆踊りに歌われる「会津磐梯山」のもと歌は、玄如節ともいわれます。昭和初期に小唄勝太郎という民謡歌手が、レコーディングしますが、流調さや音曲などむずかしかつたためか、編曲されて今日のような「会津磐梯山」の民謡となったといわれます。そのため、玄如節と同じ歌詞があるのです。「会津磐梯山は宝の山よ、笹に黄金がえーまたなり下がるー」などは、その一例です。

Q・・玄如節をウタゲイとも呼びますが、どのような歌詞を歌い、相手に勝つことでもあります。ウタゲイは男女共におります。ウタゲイ、その呼称からは、古代の筑波山の歌垣（または嬪女）をも連想されます。玄如節を掛け合いで歌うときは、観音堂の前などで掛行灯を真ん中に下げ、そのまわりに車座になり歌ったとも言われています。

Q・・玄如節のゲンジヨとは、どういう意味があるのですか？

A・・一般には、会津若松市の天寧寺というお寺に「元朝」という美僧がおり、毎朝水を汲み、御仏に供えていました。村の娘たちが元朝を見たさに水汲みに

## 玄如節

意味があるのですか。

A・・玄如節を歌う人をウタゲイとかウタゲと呼びます。ウタゲイと呼ばれる人は村に一人や二人がおり、祭りや講中などにはお互いに出かけ、玄如節を歌い競い合ったと言います。玄如節は古くは決まった歌詞がなく、掛け合いで即興的に歌詞を作り、それを玄如節の節まわしで歌います。ウタゲイたちは次々と歌を歌い続けます。歌詞ができず歌えなくなると、負けになります。歌い競うために相手を皮肉つたり、悪態的な歌詞も出て、相手を封じ込める場合もあります。また、聴衆たちがなるほど感心す

佐々木長生

回答者  
民俗担当

Q&A

行くのですが、霧が出てその姿が見られなかったと言います。また、「げん」という母親孝行の娘がおり、母の病気が治ることと、娘に恋した男たちから避けたいため神に祈願すると、母は元気になり霧が出て男たちに姿を見られることがなかったと言います。そんな言い伝えを「玄如見たさに朝水汲めば、姿隠しの霧が出る」と歌われています。日本民俗学を体系づけた柳田國男は、宗教芸術に携わっていた漂泊の女性であったろうとする仮説を述べています。定かではありません。

Q・・古代の歌垣に関連した民謡とすれば、このよう

な形式の民謡は他にもありますか。

A・・ほとんどないようです。玄如節は会津の民謡の代表的存在であると同時に、わが国の民謡、歌謡の源流をたどることができる古い姿をとどめた民謡といえます。このような民謡を今日まで歌い続けてきているところに、会津の民俗性があるといえます。

ミュージアムイベント 国際博物館の日記念事業

「玄如節と会津の民謡」

玄如節顕彰会による公演です。民謡「会津磐梯山」のもとになった「玄如節」と会津の伝統的民謡を紹介します。

日時 平成三二年五月一五日(土)

一三時三〇分から一五時

場所 福島県立博物館 エントランスホール



即興による玄如節の公演風景  
(平成20年8月3日、県立博物館講堂)

天然スギ

小澤 義春 自然担当

スギは日本を代表する高木の常緑針葉樹です。林業樹種として最も盛んに植林され、全人工林面積の四三%を占めています。杉材は適度の強度と耐朽性があり割裂し易いため、古代から建築用材として用いられてきました。杉の名は幹が真っ直ぐに伸びる木、つまり直ぐ木に由来するようです。

天然のスギは青森県鱈ヶ沢町を北限、鹿児島県屋久島を南限として分布しています。天然スギとは、実生、伏状、倒木などの天然更新により後継樹が生育するものです。天然のスギは古くから伐採され、かつ植林が繰り返されてきたので人為



尾根筋に列生する飯豊スギ 喜多方市鳥屋森山周辺

が加わる前の生育域を明らかにするのは困難です。現在、集中分布が認められるのは、青森・秋田地方、北陸や山陰の日本海沿いの地域、佐渡島、会津地方西部、伊豆半島、紀伊半島、高知県

魚梁瀬地方、屋久島などです。形態・生態並びに木材製品の特性が地域で異なるため、秋田杉、飯豊杉、吉野杉、魚梁瀬杉、屋久杉等地名を冠して地域品種で呼ばれることがあります。

スギ科は世界に九属一六種現生しますが、日本にはスギ属一種のみが自生しています。それが学名クリプトメリア・ヤポニカ (Cryptomeria japonica) の「スギ」で日本の固有種です。スギは少なくとも新第三紀鮮新世以降日本列島に分布を始め、第四紀の数回の氷河期を生き延びた「第三紀の残存植物」と見なされています。最終氷期最盛期(約二五、〇〇〇〜一五、〇〇〇年前までの間)に若狭湾や伊豆半島などに逃避していたスギが、晩氷期の温暖化により生育域を北上させたとする説があります。若狭湾逃避のスギは日本海岸沿いに、伊豆半島逃避のスギは太平洋岸沿いにそれぞれ北上したとされます。猪苗代湖北西の赤井谷地湿原では、花粉化石から約五、〇〇〇年前からスギが増加を始めたことが認められます。

一連の分布域が太平洋側と日本海側に分かれるのは、こうした植生の変動を反映したものと見えそうです。両者に形態変異が認められるため日本海側のスギは「ウラスギ」、太平洋側のスギは「オモテスギ」として区別されることがあります。一般にウラスギはオモテスギに比べて耐陰性が強く、枝は下垂して雪をかぶって枝が地につくと、そこから発根して新たな独立木となる伏状更新が行われます。一方、オモテスギでは天然下種による実生更新が見られます。ウラスギの針葉は湾曲して柔らかい触感ですが、オモテスギは直線的で触ると痛いなどの違いもあります。

会津地方には、飯豊スギ、本名スギ、吾妻スギの天然スギがあります。飯豊スギは、飯豊連峰の福島県側山域に分布する天然スギの総称です。喜多方市山都町鳥屋森山を中心とする稜線部域と西会津町奥川北西稜線部域に集中分布しています。尾根筋に多く生育し沢筋にはわずかです。尾根筋にはポドゾル性土壌が線状に分布していますが、天

然スギの列生と見事に一致しています。根返りや斜面崩壊などの地表攪乱により、ポドゾル性土壌の尾根筋は鉱物質土壌が露出しやすい条件にあります。スギは本来鉱物質土壌のみ実生更新の機会が確保できます。そのため天然スギが尾根筋などに偏在することを地形的・土壌的極相と見なすばかりでなく、地表攪乱に依存した樹種と見ることができません。

夏企画展「森に生き山に遊ぶ」では、小学生五〜六人分の大きさのトチノキ、キリノキ、さらにスギノキの輪切り原木をご覧いただけます。また長さ六〇センチメートル代の樹木サンプルを総数三〇本展示します。福島県内五九市町村ごとの、まちの木で製作したピースを組み合わせて福島県地図を完成させる、ジグソーパズルで遊べるコーナーもあります。

また、「森は動いている」と題して講演会(七月一八日)、樹木観察会(七月二一日)を関連して開催します。



ウラスギ系統の鎌状針葉 西会津町奥川



オモテスギ系統の直線状針葉 浪江町赤宇木

## 会津の茶の湯

— 会津本郷焼と会津漆器の名品・江戸から現代まで —

会 期：4月17日(土)～5月30日(日)  
 会 場：常設展部門展示室 歴史美術  
 観覧料：一般・大学生／260円 小中高校生／無料  
 ＊常設展料金でご覧になれます。

企画展「千少庵と蒲生氏郷」にあわせて、少庵と氏郷が活躍した時代以降の会津の茶の湯をご紹介します。江戸時代の会津本郷焼の茶碗、水指などの茶陶、会津漆器の茶懐石道具や、近現代に活躍した会津の工芸作家による茶道具などを展示。会津の茶の湯の歴史と会津の工芸の粋をご覧ください。



灰釉茶碗 銘 会津川  
 (個人蔵・福島県立博物館寄託)



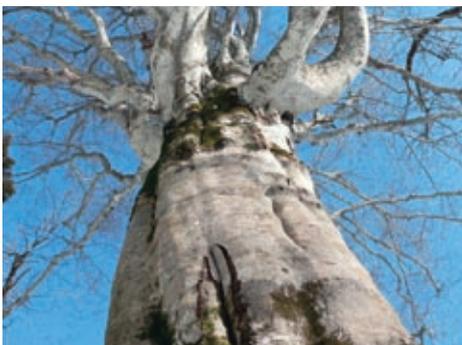
松竹梅漆絵折敷  
 (個人蔵・福島県立博物館寄託)

## 森に生き山に遊ぶ！

— ふくしまの森林文化 —

森林環境税によりふくしま森林文化企画展実行委員会が主催する展覧会で、県内の五つの施設が連携します。白河市のまほろんは考古資料、福島市の歴史資料館は歴史資料、いわき市のアクアマリンふくしまは森と海の関係、大玉村のフォレストパークあだたらは森の自然の体験、そして当館は県内の森林の分布など現在の姿をとらえ、さらに森とかわる人々のくらしに焦点をあてます。

まず只見町のブナの巨大な垂れ幕や美しい映像で森の世界にいざないます。市町村の木を使ったパズル。縄文の遺跡から出土した林立する柱。一本の樹木から削りだされた力強い仏像。山に抱かれた里の特産物麻の恩恵をう



け花開いた芝居の文化。森のくらしに使われてきたいろんな道具。とにかく森をテーマにした楽しい空間を用意します。もちろん森林の基本データはしっかりとご紹介します。学びと楽しみの融合した展示空間でお待ちしています。

(民俗担当 榎 陽介)

## 企画展

※は要申込

「少庵と蒲生氏郷」  
 会期 4月17日(土)～5月30日(日)  
 ○企画展関連行事

展示室講座第1回「氏郷の生涯―「蒲生記」を読む1」  
 講師 学芸員 高橋 充  
 日時 4月17日(土) 13時30分～15時

視聴覚室・企画展示室

展示室講座第2回「会津の茶の湯」  
 講師 学芸員 小林めぐみ  
 日時 4月29日(木) 13時30分～15時

視聴覚室・企画展示室

展示室講座第3回「氏郷以後の蒲生家―「蒲生記」を読む2」  
 講師 学芸員 高橋 充  
 日時 5月8日(土) 13時30分～15時

視聴覚室・企画展示室

展示室講座第4回「茶の湯にみるやきもの」  
 講師 茶道資料館学芸員 降矢哲男さん  
 日時 5月30日(日) 13時30分～15時

視聴覚室・企画展示室

講演会「千家の再興―少庵と氏郷」  
 講師 茶道資料館副館長 筒井紘一さん  
 日時 5月1日(土) 13時30分～15時 講堂

展示解説会

講師 学芸員 高橋 充・小林めぐみ  
 日時 4月25日(日) 15時30分～16時30分 企画展示室

展示解説会

講師 学芸員 高橋 充・小林めぐみ  
 日時 5月3日(日) 13時30分～14時30分 企画展示室

※御茶園茶懐石講座「江戸時代の会津の茶会記から」  
 講師 伝統料理研究家 平出美穂子さん  
 学芸員 小林めぐみ  
 日時 5月9日(日) 11時～14時 御茶園  
 アクアマリン・潮風アート茶会  
 日時 5月16日(日) 11時～15時 アクアマリンふくしま  
 野口英世青春通りおもてなしトーク  
 第1部：きむらとしろうじんじんさんトーク  
 「野点屋さんの魅力」  
 第2部：「高校生が作った天目茶碗」  
 会津工業高校の取り組み」  
 講師 陶芸家 きむらとしろうじんじんさん

## 特集展

※常設展料金でご覧になれます

「平成新指定史跡展覧―未来へつなぐ福島への遺跡」  
 会期 2月13日(土)～5月16日(日)

## テーマ展

※常設展料金でご覧になれます

「会津の茶の湯」  
 会津本郷焼と会津漆器の名品・江戸から現代まで」  
 会期 4月17日(土)～5月30日(日)

「ふるさとの考古資料1―会津若松市遺跡探訪」  
 会期 5月29日(土)～平成23年5月15日(日)

「昭和のくらし―あの頃の家電製品」  
 会期 6月8日(火)～3月21日(月)

「白虎隊の図像学」  
 会期 6月12日(土)～8月1日(日)

## ポイント展

※常設展料金でご覧になれます

「笹山原遺跡群の旧石器」  
 会期 4月20日(火)～5月28日(金)

「三角縁神駄鏡と会津の銅鏡」  
 会期 4月20日(火)～9月26日(日)

「恵日寺絵画」  
 会期 4月22日(木)～5月26日(水)

「腕足類つてなに？」  
 会期 4月24日(土)～6月4日(金)

## 移動展

「いわき市考古資料館第1回企画展・福島県立博物館移動展」  
 会期 4月21日(水)～8月31日(火)

## ミュージアムイベント

福島県立博物館・助会津若松文化振興財団共催事業  
 「音の化石―イマジネーション」

## 会津風雅堂ワークショップ「コンサート」

出演 会津市民オーケストラの皆さん・ワークショップ参加の子もたち  
 会場 エントランスホール  
 日時 4月25日(日) 13時30分～15時  
 国際博物館の日 記念事業「玄如節と会津の民謡」  
 出演 玄如節顕彰会の皆さん  
 会場 エントランスホール  
 日時 5月15日(土) 13時30分～15時

## 木曜の広場

第1回「遠野物語」を読む1  
 講師 館長 赤坂憲雄  
 日時 4月1日(木) 13時30分～15時  
 第2回「遠野物語」を読む2  
 講師 館長 赤坂憲雄  
 日時 5月6日(木) 13時30分～15時  
 第3回「遠野物語」を読む3  
 講師 館長 赤坂憲雄  
 日時 6月3日(木) 13時30分～15時

## 講演・講座

※は要申込

○民俗講座

映像から学ぶ民俗学①「千歯扱き」  
 講師 専門員 佐々木長生  
 日時 6月13日(日) 13時30分～15時 講堂

○歴史講座

漆の歴史シリーズ1「縄文時代漆の考古学」  
 講師 学芸員 森 幸彦  
 日時 6月5日(土) 13時30分～15時 講堂

漆の歴史シリーズ2「会津の戦国大名と漆」  
 講師 学芸員 高橋 充  
 日時 6月12日(土) 13時30分～15時 講堂

漆の歴史シリーズ3「築田家文書と漆」  
 講師 学芸員 阿部綾子  
 日時 6月19日(土) 13時30分～15時 講堂

漆の歴史シリーズ4「明治期子ども読み物に見える漆器」  
 講師 学芸員 佐藤洋一  
 日時 6月27日(日) 13時30分～15時 講堂

○自然史講座

※野外講座「郡山で化石をさがそう」  
 講師 学芸員 竹谷陽二郎・相田 優  
 日時 5月22日(土) 9時30分～17時 郡山市逢瀬町河内  
 高広山林道・郡山市ふれあい科学館  
 小雨決行・雨天延期の時は翌週29日(土)に順延。申込は郡山市ふれあい科学館へ(TEL024-936-0201)

○実技講座

※「須賀川の絵のぼり製作・小旗作り」  
 講師 伝統技術保持者 大野青峯さん・大野久子さん  
 日時 5月5日(水) 13時30分～15時 体験学習室

※三島の編み組細工①「山ぶどう細工」  
 講師 伝統技術保持者 菅家藤一さん  
 日時 6月20日(日) 13時30分～16時 実習室

○実演

昔語り  
 講師 語り部 横山幸子さん  
 日時 5月2日(日) 13時30分～15時 体験学習室

昔語り  
 講師 語り部 山田登志美さん  
 日時 6月6日(日) 13時30分～15時 体験学習室

## やさしい展示解説

※展示解説員による常設展総合展示の案内です。  
 ※毎週土曜日、日曜日の11時と14時から30分ほど行います。

※要申込の行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始しますが、異なる場合もありますのでお問い合わせください。  
 ※その他、行事等の詳細に関しては、月行事予定やホームページをご覧ください。

## 4月～6月の休館日

4月 5日(月)・12日(月)・19日(月)・26日(月)  
 5月 10日(月)・17日(月)・24日(月)・31日(月)  
 6月 7日(月)・14日(月)・21日(月)・22日(火)・28日(月)